

## 2. 嬉野町環境保全型農業推進委員会

### 1) 活動の概要

#### (1) 活動の取り組み

嬉野町の茶園面積は650haで、県内面積の65%にあたる県下最大の産地である。茶の生産振興を図るため、茶園基盤整備に加え、大型製茶工場の建設など施設整備を推めている。しかし、全国の産地と同じく窒素肥料の過剰施肥による地下水の硝酸性窒素汚染問題を抱え、多肥による樹勢の劣化、生産費や作業負荷の増大などから環境に配慮した持続型農業の実現が急務であった。

地区指連茶業部会の活動の一環として、平成6年より施肥量の削減による環境への配慮と収量・品質等の生産性の維持に重点をおいた技術体系の確立を目的に実証圃を設置し、環境保全型農業の推進に向けた生産農家に対する意識の啓発、技術の普及に努めてきた。この結果、肥効調整型肥料を利用し施肥量を大幅に低減した省力・低コスト・環境保全型栽培技術が確立した。

平成10年には「嬉野町環境保全型農業推進委員会」を設立し、これらの取り組みの成果を『環境に優しい農業をめざして』の小冊子に取りまとめた。

平成12年より、新技術導入による更なる環境負荷軽減に向け実証試験を開始し、生産面、経営面について藤津農業指導連絡協議会茶業部会を中心に検討を行っている。

同時に町内の12支部に対し関係機関の協力を得、年3回地区別茶業研修会を開催し、技術研修の他、環境に配慮した安全な茶生産に向けた取り組み等、直接農家へ働きかけている。

その結果、有機栽培生産への気運が高まり、平成13年の新茶よりオーガニック認証協会で2戸、有機食品認証普及協会で4戸、計6戸が有機農産物としての認証を受け、県特別栽培農産物認証制度にも個人3戸、1団体(6戸)が申請を行い認証を受けている。

#### (2) 栽培上の取り組み

##### 土壌診断に基づく土づくり

平成7年より全農家を対象に年2回の土壌精密分析を実施し、酸度矯正、施肥の改善に努めている。町内の稲わらの約70%が茶園の敷きわらとして利用され、堆厩肥投入との相乗的な土づくりにより、土壌の物理性及び腐植含有量の増加や陽イオン交換容量の改善につながった。

また、茶園づくり123運動を推進し、2トンの有機物の投入や3割の更新による大量の有機物の還元が計画的かつ継続的に行われ、肥沃な土壌と、健全な茶園づくりができています。

##### 最新情報と耕種的対策による減農薬化

フェロモントラップの設置による予察情報や技術情報の発信、病害虫の発消長モデルを利用し、枝条管理による耕種的な対策等を行うことで、農薬の散布回数が従来と比べ約4割削減された。また近年被害が拡大しつつある難防除害虫ナガチャコガネについても試験場や専門家、農薬メーカーと協力し、被害の実態調査と生態を指導者全員で勉強し、効率的防除法の確立に向けた取り組みを開始している。

##### 施肥量低減と環境負荷軽減

肥効調節型肥料を利用し施肥量を大幅に低減した、省力・低コスト・環境保全型茶栽培技術が確立された。現在、かん注機によるサスペンション肥料を用いたかん注施肥、点滴チューブによる点滴施肥等局所施肥技術の確立に向けた取り組みを行

っている。

(3)出荷・流通面の取り組み

流通形態は市場流通である。

西九州茶連が部会員であり、市場関係者の理解が得られて、取引でも遜色のない価格を形成している。

茶商の研修での試飲や環境保全の研修会を開催している。

(4)消費者との交流活動

14回目を迎える「茶ミット」は、地元の茶業青年が主体となり、毎年4月第1土・日曜日に開催されている。そこでは、県内外から応募された消費者による新茶摘み体験やお茶の手揉み、試飲会等が実施され、嬉野茶のPRに役立っている。また、展示コーナーでは茶の栽培法、製茶法、効能等を紹介したパネルの他、環境に関する資料も集められ広く理解されている。

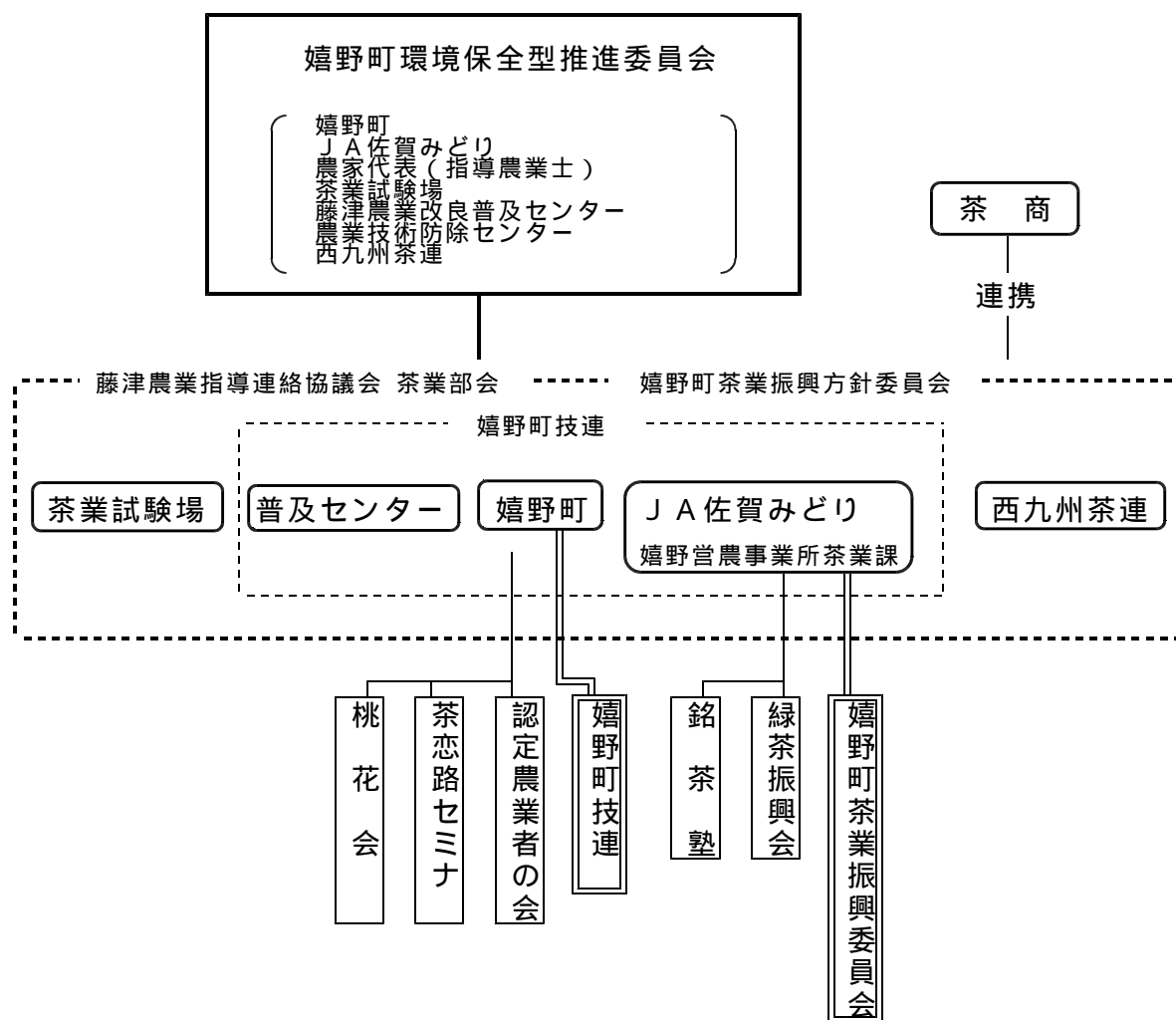
(5)農家の取組事例

経営概要

- a. 経営類型 茶業専業
- b. 経営規模 8ha
- c. 労働力 3名
- d. 有機栽培への取り組み
  - JAS認証 1.42ha
  - 特裁認証 0.75ha

施肥	資材：菜種油粕、魚粕、バイオノ有機、米糠等 施肥量：窒素成分55kg 施肥時期：春肥1 春肥2 芽出・夏肥 秋肥1 秋肥2 土づくり 2月下旬 3月中旬 4月上旬 8月上旬 9月上旬 10月下旬 20% 20% 20% 20% 20%
土づくり	土壌物理性の改良のため、過去10年間程はカヤ・ヨシを畝間に投入し続けており、土壌は膨軟になっている。 堆厩肥の施用は行っていない。 根の更新を目的に10年ぶりに畝間深耕を再開した。
病虫害対策	病虫害の予防、茶樹の活性効果をねらい、トウガラシ、ニンニク、納豆菌、焼酎、桧・松チップ、アルムジュン等を組合せ使用。 炭疽病については、降雨期の20日程前に枝葉の刈り落とし等、耕種的防除に努めている。

## 2) 推進体制



## 3) 普及センター・関係機関による支援状況

「人と環境にやさしい農業」を目標に、農業者と普及センター、関係機関で構成された「嬉野町環境保全型農業推進委員会」が主体となり、適正な施肥管理、発生予察に基づく効率的防除等による減農薬栽培への取り組み、畜産農家と耕種農家が有機的に連携した環境保全型農業に積極的に取り組んでいる。

## 4) 普及活動内容と活動のポイント

	事例の内容	普及活動のポイント
取り組みの背景	高品質茶生産のため、窒素施肥量が急増する傾向で、生産費や作業負担の増大による経営への影響とともに、大量投与による環境面への影響も深刻化してきた。農業者から省力・低コスト生産への関心が高まり、環境保全と持続型茶業経営の検討がなされ、茶園の合理的施肥方法等についての研究がスタートした。	環境保全型農業推進事業を推進するとともに、普及センターの重点的な課題に位置づけ、関係普及員によるチーム活動で取り組んできた。

<p>取 組 み の 経 過</p>	<p>平成7年度から、主に実証展示圃を設置し、技術の確立を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量の削減による環境への窒素負荷低減</li> <li>・収量品質等の生産性維持のため重点的に施肥管理技術の確立</li> <li>・農家に対する意識・技術の啓発と普及</li> </ul>	<p>展示圃の設置と実証については、地域住民の目に付くところの圃場で実施し、担当農家はリーダー的な熱意と積極性のある農家を選定。町内の山間部と平坦部にそれぞれ設置した。</p> <p>藤津農業指導者連絡協議会茶業部会の活動を通じ、出荷・販売にも普及として支援したことで、より成果が上がった。</p>
<p>技 術 等 の 内 容 と 支 援</p>	<p>(技術の組み立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量及び施肥回数、施肥コスト等について実証展示し、茶樹の生育・品質の変化及び環境への影響を検討。</li> <li>・年間の気象の変化の中での茶の肥料吸収パターンを、嬉野町の茶園のデータをもとにシュミレーションし、茶の肥料吸収パターンに合わせた施肥技術を確立した。</li> <li>・「食フェスタ」や「茶ミット」開催による消費者との交流や農業体験についての支援活動。</li> </ul>	<p>技術情報の提供や支援活動においては技術確立に関する全般的な視点と細部にわたる具体的な支援に留意。</p> <p>各種研修会や現地検討会での技術波及</p> <p>適切な時期に土壌分析の実施</p> <p>関係機関と連携して、タイムリーに環境保全の研究会を実施。</p> <p>消費者へのアンケート調査等による消費者ニーズの把握</p>
<p>生 産 農 家 の 組 織 化</p>	<p>認定農業者の組織活動の充実強化と認定農業者の経営改善計画に対する個別支援活動と仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営講座を継続的に開催し、経営管理向上や茶の流通に関する研究会の実施。</li> <li>・茶生産農家の若い女性による簿記記帳グループ「桃花会」が平成10年より活動を開始。11年からは茶恋路セミナーを開催し、これまでの生活面に偏った女性の役割を農業の担い手としてとらえ、技術面や経営面、後継者問題等、幅広い研修を行っている。現在では、自主的活動を行っており、市町村経営改善支援センターと普及センターがサポートしている。</li> </ul>	<p>組織化については、経営改善支援センターと連携し、認定農業者を中心に活動の展開を推進。また、展示圃委託農家や先進的農家を中心に茶業部会活動の活性化を図った。</p> <p>女性の経営への参画を促すための技術研修会、先進農家の講話、視察研修等を行うことで、経営主とのパートナーシップを形成することができた。</p>

<p>関係機関との連携</p>	<p>関係機関、団体との主な連携事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証展示圃の設計及び運営全般については、「藤津農業指導者連絡協議会茶業部会」において、役割分担等により技術や流通関係の情報提供と支援を行った。</li> <li>・ 経済連やJA等においては、資材流通面の担当者研究会等の開催により意識の啓発を行った。</li> </ul>	<p>関係機関と連携し、先進事例等を参考に茶業部会の活動を誘導。</p> <p>JAとの連携により、栽培暦作成支援。</p> <p>町の茶業推進方策の柱の一つとして取り上げられ、将来にわたって持続的茶業推進方針の検討が可能となった。</p>
-----------------	--	--



製茶共進会の様子



茶園共進会における土壌診断